

# 高月家文書目録

## 【史料概要】

宇土藩士・高月家に伝来した文書群。

高月家は、宇佐神宮(大分県宇佐市)の大宮司・宮成家の一族で、豊前国高月郷(現福岡県北九州市八幡東区)を本拠地としていたことから高月姓を名乗った。初代・高月公信は、豊前国内の宇佐社領のうち3万石を知行していたが、没落後は毛利家に知行高3千石で召し抱えられ、筑前国芦屋(現福岡県芦屋町)に居住した。公信の子・公重も毛利家に3千石で仕え、朝鮮出兵に従軍した後、家臣を辞して豊前国宇佐(現大分県宇佐市)に転居し、高月祐賀と改名した。祐賀の嫡男である公宗が、当時中津城主だった細川忠興(三斎)に知行高150石で仕えた。寛永9年(1632)、細川家の肥後入国に伴い、公宗も三斎に従って八代に移住したが、正保3年(1646)に三斎が死去すると、家臣を辞して豊前国宇佐に戻った。その後、公宗の子・教品が天和3年(1683)に宇土藩に仕えて始めて以降、公明、公篤、公知、公重、可祝と代々宇土細川家に仕えた。

なお、文政13年(1830)に建築された高月家の住宅は、熊本県内に現存する最古級の武家屋敷として、宇土市指定有形文化財に指定され、一般公開されている(毎週日曜日のみ公開)。

史料番号	史料名	年月日	作成者	宛名	内容	備考
1	包紙			高月五兵衛	No.1-1の包紙	
1-1	知行宛行状	文政11年8月	細川之寿	高月五兵衛	肥後国下益城郡に50石を宛行う	
1-2	十二天					
2	包紙			高月五郎作	No.2-1の包紙	
2-1	知行宛行状	文久2年8月	細川行真	高月五郎作	肥後国下益城郡に50石を宛行う	
3	覚書	明和2年5月 寛政2年12月 文政3年8月9日	山羽庄大夫 高月五郎左衛門 高月五兵衛		家臣の服務規定などの写し	
4	肥後国阿蘇郡南郷手永川 後田村西栃木覚	文化12年5月9日	栃木湯亭忠助	御手代 権兵衛 藤井孫之助		
5	覚書	近世後期	高月源左衛門	高月彦三郎(五兵衛)	高月家の歴史・由緒について	表紙に「源左衛門様御手跡二付後年別而大切二子々孫々可有之候也五兵衛書置」とあり
6	先祖書	近世後期				
7	先祖覚書	近世後期				
8	御父様御遺言	天保10年3月吉日	高月五兵衛	子々孫々		史料冒頭に文化10年7月の寺尾藤兵衛→高月五郎左衛門の土地譲渡証文(前欠)あり
9	覚	天保15年12月	福永平助		畑地一覧	末に「十二月七日福永平助より受取」とあり
10	御寄附証文之事	文化8年7月	西久保 忠岸院(江戸愛宕下)	高月五郎左衛門	亡高月五郎大夫(雪峯軒鉄相了樹居士)供養料に対する受取証文	
11	雪峰軒鐵相了樹居士(公親)	享和3年11月11日			法名札	
12	法名一覧(公知・公重ほか)	嘉永6年8月～明治12年8月			高月五兵衛・五兵衛妻・高月五郎作・五郎作次女・五郎作三女	

# 高月家文書目録

史料番号	史料名	年月日	作成者	宛名	内容	備考
13	御請申上覚	嘉永4年正月	曲野村勇八他	高月五兵衛		
14	御赦免并畑地譲売渡証文之事				松橋・曲野・松山村	
15	八神					
16	十二天					
17	奉願候口上覚	享和2年12月 文化9年12月12日	高月五郎左衛門 高月五郎左衛門	玉崎恵一右衛門 芦田十郎衛門	拝領の紋付を悞・彦三郎に譲る件 拝領の紋付を悞・五兵衛に譲る件	
18	一騎前差上候扣		高月五兵衛			包紙のみ
19	(札の書き方)					
20	(札の書き方)					
21	備物					
22	(書付)				「御割印酉七月廿四日此方宅ニ藤兵衛被持 参相渡請取候也」	
23	口上覚				「後年之御扣」とだけ記載	包紙のみ
24	目録「金子百疋」	10月17日			七歳13歳拝領	
25	(書付)		高築(ママ)源左衛門			前欠
26	竹ノ御絵表具之覚					後欠
27-1	(書状)				大坂より八月十一日之書状同廿二日ニ相達 候 殿様御機嫌能御着船之御義奉恐悦候...	
27-2	(書状)					後欠 No.27-1の続き
28	(書状)	3月19日 11月24日 正月26日 5月26日 9月朔日	則剃教品(高月教品)	高築(ママ)源内		
29	口上之覚	4月	高月五郎左衛門		軍用金銀について	
30	包紙			高月五郎左衛門		ウハ書「被仰渡之節御渡被下候御 書也」とあり
30-1	被仰出之覚	明和7年8月28日		高月五郎左衛門	15石5人扶持を与え、御給人並に召直す	

# 高月家文書目録

史料番号	史料名	年月日	作成者	宛名	内容	備考
31	伝来刀脇之事	寛政3年正月吉日	公篤(花押)	高月嫡男	先祖伝来の刀剣について	
32	包紙					ウハ書「代々御中小姓ニ御定被仰出候覚」とあり
32-1	被仰出覚	天明4年閏正月		高月五郎左衛門	子孫代々御中小姓の家に定め置く	
32-2	(書付)	天明4年閏正月28日			御中小姓の家に定め置かれた件について	右御目付役見崎蔵太取計
33	包紙					ウハ書「覚 高月五郎左衛門」
33-1	包紙					ウハ書「御紋付願継覚」
33-2	文化九年十二月御実父様より御渡候願					
34-1	(書状)	文政4年10月12日	高月五兵衛	上羽又右衛門	念願相叶無此上茂重畳難有仕合奉存候・・・	
34-2	(書状)	文政4年12月	高月五兵衛	山川伊兵衛	願之通拝領被仰付被下候ハ、難有仕合奉存候・・・	
34-3	(書状)				存生之内相心掛候武器武騎前讓請所持仕候・・・	後欠 No.34-4とNo.34-5と一連
34-4	(書状)					後欠 No.34-3とNo.34-5と一連
34-5	(書状)					後欠 No.34-3とNo.34-4と一連
35	最上上檀之墓目	明和9年10月日	安田口亮 景敬	高瀬九左衛門		
36	(高月公知事績)	文政期	公知(高月五兵衛)		文化6年～天保7年の高月五兵衛公知に関する事績の控	
37-1	被仰出覚			高月五兵衛	当分御音信方御座敷奉行を仰せ付ける	
37-2	(書状)	12月19日	中野三郎衛門	高月五兵衛	鯛20疋贈答のお礼	
37-3	(書状)	12月27日	中野三郎衛門	高月五兵衛	判物頂戴のため明日28日4時麻上下着用の上罷出るよう指示	
37-4	被仰出覚	12月朔日		高月五兵衛	先年知行召上げられたが、職務精勤につき新地50石を下される	
37-5	(書状)	12月25日	中野三郎衛門	高月五兵衛	新地拝領の御礼として正月元日朝に罷り出るよう指示	
37-6	(書状)	11月晦日	中野三郎衛門	高月五兵衛	御用之儀有之候間、明朔日四時御次江可被罷出候以上	
38	(書付)				公知・公重の事績など	

# 高月家文書目録

史料番号	史料名	年月日	作成者	宛名	内容	備考
39	(書状)	6月9日	小堀・高濱・関・佐方・矢嶋・河嶋	高月五兵衛	兼々不行跡につき御雇召し仕い難く、永之御暇下される	前欠
40	墓目御守					
41	包紙					ウハ書「豊前以来 大切成ル先祖書入 先祖忌日并歳回政(ママ)」
41-1	先祖忌日覚	近世後期			慶安2年没の高月公重(祐賀)から嘉永6年没の高月五兵衛まで	
42	被仰出之御書附四通	文政6年5月4日改		高月五兵衛	高月公篤・高月公親・高月公知三代の事績	
43	細川与松(立之)御書	寛政6年正月	与松(細川立之)	森陽右衛門他22名	為年甫之嘉儀着一种到来祝着候	
44	細川中務(興文)御書	正月2日	中務(細川興文)	森陽右衛門他7名	為年甫之嘉儀着一种到来祝着候	
45	細川中務(興文)御書	正月3日	中務(細川興文)	人見順右衛門他5名	為年甫之嘉儀着一种到来満足之事候	
46	細川豊前(行芬)御書	天保11年正月3日	豊前(細川行芬)	中野権十郎他25名	為年甫之嘉儀着一种到来祝着候	
47	細川豊前(行真)御書	正月朔日	豊前(細川行真)	高月五郎作・渡並武七	為年甫之嘉儀着一种到来祝着申候	
48	細川和泉(立礼)御書	天明3年正月3日	和泉(細川立礼)	高月五郎左衛門	其方儀就加増五拾石遣候, 着一种到来満足候	
49	細川和泉(立礼)御書	正月3日	和泉(細川立礼)	高月五郎左衛門	其方儀就擬作知行五拾石遣候, 着一种到来満足候	
50	(書付)				黒札拵之次第など	
51	茶哥百首	享保4巳亥年小春十日	吸口庵			奥書「此百首ハ信之自詠也, 信安写之, 嫡子也」 高月公明書写
52	覚	文政10年11月	高月五兵衛		先祖の功績や細川三斎書状写など	
53	包紙					ウハ書「御本家様ニ而綿考集録再調被仰付候二付, 此方様御家中ニ而も武功御判物等書出候様被仰出候節書出候覚書, 此内二入有之大切ニ可致也」
54	口上之覚	文化12年7月7日	高月五郎左衛門	御目付	藩に軍用金銀差し上げ	
55	覚		高月五郎左衛門		高月公明拝領の品々	
56	(書付)				高月公知事績断簡	

# 高月家文書目録

史料番号	史料名	年月日	作成者	宛名	内容	備考
57-0	包紙		和泉	高月五郎左衛門		
57-1	(書状)	9月3日		高つき(ママ)五郎左衛門		
57-2	(書状断簡)	6月25日				後欠
57-3	(書状断簡)				江戸とのやりとりカ	前後欠
57-4	包紙					ウハ書「軍用金銀差上申度願書扣、右差上候二付被仰出之御書付入、後年之見合二入」
57-5	(高月五兵衛事績断簡)	近世後期			御音進方御座敷奉行無異儀御免被仰付候事	
57-6	(書付)		松本又左衛門書之			五郎左衛門様御手本
57-7	御実名 公篤(キンアツ)	宝暦12年3月27日	友田恒澄	高月五郎左衛門		友田恒澄 諱考之
57-8	包紙		村上三蔵	高月五郎左衛門		ウハ書「高月五郎左衛門様 村上三蔵 右江被仰出書付入」
57-9	被仰出覚			高月五郎左衛門	軍用金銀上納につき思召し	文化13年7月11日の出来事
57-10	書状	7月16日	村上三蔵	高月五郎左衛門	先日仰せ出された御書付の写しについて	ウハ書「高月五郎左衛門様 村上三蔵」
57-11	包紙					ウハ書「覚 高月五郎左衛門 被仰渡之時御渡被下候御書付入」
57-12	被仰出之覚	明和9年10月17日		高月五郎左衛門	出精につき御擬作知行50石下される	
57-13	口上覚	7月	高月五郎左衛門	御目付御中	軍用金銀について	端裏書「此書付本書達而二成 村上三蔵案文」
57-14	(通達)	8月26日	上羽又右衛門	高月五兵衛	跡目相続の御礼として明日4時麻上下着用の上御殿に罷出	
57-15	包紙					No.57-16の包紙 ウハ書「被仰出之覚 高月五郎左衛門」
57-16	被仰出之覚	天明2年正月11日		高月五郎左衛門	役儀出精につき御擬作50石から100石に増	
57-17	包紙					No.57-18の包紙 ウハ書「口上覚 高月五郎左衛門」
57-18	覚	(文化9年)12月13日	高月五郎左衛門		拝領の品々書き上げ	
57-19	奉窺候口上之覚	9月7日	高月五郎左衛門	芦田十左衛門	先祖150回忌につき豊前国への墓参御暇願	い

# 高月家文書目録

史料番号	史料名	年月日	作成者	宛名	内容	備考
57-20	口上覚(案文)	9月6日	高月五郎左衛門	村上善左衛門	豊前小倉への墓参ついでに筑後国芦屋郡へも立ち寄りたい旨を願う	
57-21	口上覚	9月7日	高月五郎左衛門	村上善左衛門	豊前小倉への墓参ついでに筑後国芦屋郷へも立ち寄りたい旨を願う	
57-22	包紙					ウハ書「口上之覚 高月五郎左衛門」
57-23	被仰出覚	正月11日		高月五兵衛	亡父出精及び厚き志を賞され、跡目相続を許し御擬作知行のうち50石を本知に直す	
58	系図				系図内に見える名字は「大坪」「本間」「有川」「新井」「松尾」「貞方」など	前欠 高月家の系図ではない
59	系図					No.58の系図と一連のものと思われる
60	有川家系図				清和天皇～有川利起	
61-1	高月家系図				應神天皇から始まり宮成中務大輔～高月公明	
61-2	高月家系図				高月公明～高月公篤	No.61-1の続き
62	系図				系図内に見える名字は「有川」「今利」「大坪」「大濱」など	No.58・59の系図と一連のものと思われる
63	弓記鳴弦墓目秘密口傳書					
64	(伯耆流居合の相伝書)	文久3年9月	星野四郎左衛門実直他	高月仙之助		
65	(弓記鳴弦墓目秘密口傳書)					No.64の続き
66	鳴弦墓目巻 上					卷子装
67	鳴弦墓目巻 中				諸家之鳴弦墓目秘密傳	卷子装
68	鳴弦墓目巻 下				極秘密勸請墓目之弧箭(弓矢の図解)	卷子装
69	鳴弦墓目巻 下		宇佐公篤		鳴弦墓目足踏大事図	卷子装
70	鳴弦墓目秘密口傳書					卷子装
71	(鳴弦墓目秘密口傳書)		宇佐公篤			No.70の続き
72	新陰之流外之物巻 一	享和2年12月吉日	速水幾太郎局言(ヲカキ)他	高月左内	新陰之流外之物謀略之巻	卷子装
73	灌頂極意之巻絵図入 十番	文化2年9月吉日	速水幾太郎局言	高月左内		卷子装

# 高月家文書目録

史料番号	史料名	年月日	作成者	宛名	内容	備考
74	介錯法式之巻	弘化3年11月吉日	高月五兵衛 源公知			卷子装 原本は手偏に介
75	(装束の図解)	文化8年6月	文化4年9月志水正房写 文化8年6月高月公知写		寛政2年の仙洞御所遷幸行列の装束	
76	高月家系図		高月可祝		應神天皇から始まり宮成中務大輔～高月可祝の子供たちまで	
77	高月家系図				高月五兵衛公知の子供たちまで	前後欠
78	高月家系図				初代公信から9代可祝まで	
79	高月家系図					No.79からNo.83までは一連のもの
80	高月家系図					No.79からNo.83までは一連のもの
81	高月家系図					No.79からNo.83までは一連のもの
82	高月家系図					No.79からNo.83までは一連のもの
83	高月家系図					No.79からNo.83までは一連のもの
84	御屋鋪易文	10月吉日			敷地略図	
85	(書付)				「則刺様御手簡数々白峰紹雪御詠歌 壹枚後年大切所持可有之候事」とだけ書かれている	
86	修業證書	明治29年3月26日	熊本県熊本市熊本高等小学校	熊本県士族 高月利男	高等小学校第3学年の課程を修業	
87	細川行芬知行宛行状	天保13年12月	豊前行芬(花押)	高月五兵衛	下益城郡内に50石遣わす	掛幅装
88	新陰之流手合絵図	文化2年9月吉日	速水幾太郎局言他	高月佐内	「新陰之流猿飛之目録」「新陰之流参学之巻」「新陰之流八組目録」「新陰之流位詰之目録」「天狗書秘伝之巻」	
89	高月五兵衛肖像画					紙本著色
90	蓬萊仙境図					掛幅装・紙本著色
91	鯉図					掛幅装・絹本淡彩
92	水墨画					掛幅装・紙本墨画